

隼人族の森を渡る風

創造の現場から 第53回

森の彫刻家 上床利秋

生き残って、紅一点その後

アフリカ産まれのティラピアが人間の手で暖かい温泉の流入する天降川に放たれて爆発的に個体数が増えたように、錦鯉も増えるのだろうか。前号で私は、錦鯉の子供が生まれ増えていく事を願ったけれども、実際はそういう風にはならないらしい。

黒い野生の鯉との間に生まれた次世代の鯉は確かに色が付いているものがあるだろうけれど、世代が交替するにつれ黒くなっていくらしい。実際丘の上からも目立っているこの魚は、サギなどの鳥に食べられる危険性も高いだろう。

一般的に池で凍ってしまったメダカや金魚は、氷が解けると同時に泳ぎ始めるらしい。この事実が錦鯉にもあてはまり、川に流れ込む温泉で蘇生したとすれば、天降川に棲む神様が粋な計らいをしたものである。泳いでいる姿はとても自由を感じて楽しそうに見える。

ではこの魚はこの流域で生き残っていく事ができるのだろうか。

伝説では鯉が滝を登るといいうが、現実ではそういうことはない。鯉には遡上性という本能はない。かつて鹿児島市内の河川に放たれた養殖の黒鯉は、大雨が降るたびに下流に流されて川口で群れを成していた。そしてやがて数を減らしていった。大雨でも流れの緩やかな場所に身を置く術を覚えているものだけが生き残るのだろう。他にも感染症が流行することもある。天変地異でも運よく生き残った魚だけが次世代を広げていく。それも自然の摂理というものだ。

しかしながら運よく生き残った錦鯉だから何とかして長生きしてもらいたい。三月のある日、天降川に春一番が吹く時に、今年になって初めての大雨が降った。次の日に私はいつもの場所を

探したが、錦鯉はいなかった。暖かくなり温泉の流入する場所にも魚は集まらなくなっていた。私は下流を捜してみた。50メートルほど歩いただろうか、堰の下流にその姿は楽しそうに泳いでいたのだ。何事もなかったかのように。6月になったりもつと雨は降るだろう。それは神様が与えた試練だ。

やはり錦鯉も下流に流されていく。大雨が降るごとに下流に流されて、新しい世界で引越したかのような気分で生活することを経繰り返していくのだろう。そして川幅は広くなつていき、やがて私はその姿を見付けることもできなくなるのだろう。錦鯉君の楽しい魚生に幸あれと祈る。



天降川 安楽温泉郷流域にて 4月1日 筆者撮影



される。ところがメダカは鯉に比べて塩水に強く、遡上性がある。だからいったん海に流されても再び違う河川を登ってくるので、様々な場所に繁殖することができる。しかも大きな魚には住めない浅瀬が大好きだ。どんどん遡上して農

業のない田んぼを目指して、小さな堰を超えていく能力はあつぱれである。弱いものほど生き残る術を考えるようだ。不器用な絵描きさんほどよく考える。そして魅力的な作品が出来上がるようになる。失敗経験の多さから指導力もついている。器用な絵を描く画学生さんは先生には褒められても、将来自分の前にそびえ立つ壁を超えることができない。それに似ている。

日展会員 白日会会員 日本彫刻会正会員

この森のアトリエで彫刻を共に作ってみませんか

ホームページ刷新しました。

<https://douzou.jp/>

上床利秋 検索

バックナンバーも読むことができます。



レモン画材絵画教室 ご案内

- 隔週水曜日 10:00～ 油絵・水彩教室
- 隔週土曜日 16:00～ 油絵・水彩 教室
- 隔週日曜日 16:00～ デッサン
- 隔週土曜日 ①10:00～ 子供絵画教室
②13:30～
- 月1回 第2火曜 10:00～ 和紙ちぎり絵教室

お申し込みはTEL 0995-45-1015 国分進行堂・レモン画材まで